

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7期第9回相模原市中央区区民会議小委員会（グループ1）		
事務局 (担当課)		中央区役所区政策課 電話042-769-9802（直通）		
開催日時		令和6年2月26日（月） 10時25分～11時05分		
開催場所		相模原市民会館 2階 第2大会議室		
出席者	委員	6人（別紙のとおり）		
	その他	0人		
	事務局	2人（区政策課職員）		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 議題 （1）第7期中央区区民会議重点行動について ・「子育て支援」 ・「子どもの健全な育成環境の充実」		
会議結果概要		<p>これまでの議論を以下のとおり整理し、提言書案の内容を議論した。提言書で表現しきれない部分については、補足説明をする資料を作成する。</p> <p>【要望内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 包括連携協定を締結している大学等に対し、学生ボランティアの働きかけを行うとともに、学生ボランティアが継続的に活動できる受入体制を構築する。 ・ ボランティアをこれから始めたいと考えている人のサポートを更に充実させる。 ・ 既存団体が抱える個々の課題を積極的に聴取し、支援できる体制を整える。 ・ 「子どもの居場所づくり」に関する情報や市の支援・取組について、情報発信を更に推進する。 		

主な内容は次のとおり。

開 会

事務局から、運営に係る事務説明を行った。

—傍聴希望者 なし—

1 議題

(1) 提言書案について

事務局から提言書案を読み上げ、内容について説明を行った。(参考資料)

(事務局)

グループ1でこれまで議論した、学生ボランティアを充実させる。ボランティアを始めたいという人たちのサポートをする。既存団体の抱える個々の課題を積極的に聞く。行政の「子どもの居場所づくり」の取組などが、これからボランティアや事業をやろうとしている人たちに伝わっていないところがあるので、情報発信を積極的に行っていく。この4つの内容をまとめたものが提言書案である。この内容で分かりにくいところなどあればご意見いただきたい。なければ基本的にこの形で進めていきたい。

(事務局)

学生ボランティアの対象について、「子どもの居場所づくり」の担当課である青少年学習センターとしては、まずは大学生のボランティアを充実させたく、中・高校生については、今のところ考えていないとのこと。提言書案では大学等としているが、中・高校生となると担当が教育委員会となるが、そこまでの議論が及んでいないため、今回は青少年学習センターに対して提言を行うとしたい。

(加賀谷委員)

現場で活動していて感じるのは、中・高校生はボランティアとしての戦力にはなっているが、まだ自分の意志で動けていない。中・高校生については、市で取り組む前に、まずは地域で育てていくべきだと思う。大学生はボランティアをする目的があったり、その先に目指すものがあったりしている。大学生がボランティアに取り組んでいただけるとありがたい。

(加賀谷委員)

和泉短期大学から、光が丘地区の中学生こどもまちづくり会議に、大学生を送りたいとの話をもらった。大学としても地域に学生を送り出したいという風潮があるようだ。

(事務局)

ボランティアをしたい人への講習について、教育の経験がないような人、単純にボランティアをしたい人、子どもとどう接したらいいかわからない人等、広くこのような人たちを対象にしているということでしょうか。

講習を設けるのはハードルが上がってしまうのではないかという話があったが、やはり躊躇している人へのサポートも必要との話があったので、提言書案は、必要に応じてとしている。

既存団体が抱える個々の問題の聴取については、年に何回かヒアリングやシンポジウムを開いているが、それに参加していない団体へのサポートはできないので、既存団体に対して、行政側から積極的に話を聞いて、支援できる部分については、個々に応じたサポートしてもらう。

行政側も様々な取組をしているが、その取組の内容が知られていない部分があるので、これから団体を立ち上げようとかボランティアをしようと考えている人たちに広く伝わるよう情報発信を更に推進してもらう。

以上、4つの項目について、取組主体となる青少年学習センターに対して要望していきたい。

この提言書案で、足りていない部分については、提言書を提出した際に、話をさせていただければと思う。

(加賀谷委員)

市社協と行政との関係性が今一つ、つかめない。

(事務局)

行政が市社協に事業を委託しており、行政と各団体の間に市社協が入っている。行政と市社協とでうまく連携できていないところがあるようで、項目3の要望で支援できる体制を整えたと記載している。

(加賀谷委員)

コロナ禍の時、こども食堂の運営について市社協に相談行った際、金銭面については、市社協の助成制度を利用させてもらった。物品の支援については、行政側が対応してくれた。

(事務局)

行政が行っている「子どもの居場所づくり」に市社協がどう関わっているのかが伝わっていない部分があるので、どういう仕組みかを理解してもらえよう、きちんと情報発信してもらう必要がある。

(八木委員)

1段落目の「子ども食堂」や「無料学習支援」が「子どもの居場所」として書かれているが、他の「子どもの居場所」関係のチラシなどを見ると、「子ども食堂や無料学習支援など」となっている。この2つだけが子どもの居場所ではないと思うので、「など」を入れてもいいのではないか。

(事務局)

「子どもの居場所」の大きな分け方として「子ども食堂」、「無料学習支援」となっている。「など」にどのような内容が含まれているのか、青少年学習センターに確認した上で、記載するか調整する。

(八木委員)

提言書案の項目1に、「継続的に活動できる受入体制を構築する」とあるが、その制度は行政が作って、その制度に沿って団体が受け入れるのか。

(事務局)

どのような形がよいのか青少年学習センターで議論してもらえればと考えている。

(加賀谷委員)

受入体制については、ボランティアで来てくれた方に対し、団体が責任を持って対応しなければならぬと思う。団体の中でも、来てくれるボランティアを大事に育てたいと話している。

(小川委員)

大事なのは、顔が見える関係を作っていくことだと思う。名前で呼び合える関係をいかに作っていくか。大学生で、大学4年間、ずっと関わる人はなかなかいない。根気強く関係を保てるような仕組み作りが大事だと思う。

(割柏委員)

提言書案について事務局から説明してもらったので何を伝えたいのか理解できたが、この提言書だけで、青少年学習センター側が理解してくれるのが疑問である。提言書は1ページに収めたいが、内容的に細かく詰めていかなければ、初めてこれを見る人には分かりにくいと思う。提言書なので内容が伴っていないと後に続いていかないとと思う。

(事務局)

文書の中で意味が分からないものがあれば修正していく。

青少年学習センターには、提言書案を作成する際、経緯を伝えた上で、今後こういうことをやっていただきたいというやりとりはしている。また、提言書を渡す際は、こういった取組をしていただきたいという意図を伝える必要があるかもしれない。

(八木委員)

例えばグループ1の今までの議事録なども付ければ分かるだろうか。

(清水委員)

この提言書を補完するものがあつた方がいいのではないか。

(事務局)

重要な部分は事務局で補足的なものを作成する。

また、この後、委員から文言などの修正について連絡をいただければ、その内容を踏まえて、青少年学習センターと最終的な調整した上で、提言書案を修正する。

以 上

第7期第9回相模原市中央区区民会議小委員会（グループ1） 委員出欠席名簿

No.	氏名	所属等	出欠席
1	小川 紳夫	相模原市公民館連絡協議会	出席
2	加賀谷 育子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	出席
3	酒井 志保	相模原市PTA連絡協議会	出席
4	清水 洋子	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出席
5	高橋 采花	公募委員	欠席
6	八木 鉄雄	星が丘地区まちづくり会議	出席
7	割柏 秀規	光が丘地区まちづくり会議	出席

(氏名50音順、敬称略)